



ホーム ニュース▼ スポーツ▼ 連載・企画▼ エリア別▼ カルチャー▼ 有料記事 紙面ビュ

2020年11月6日 (金)

◆ たたき上げ宰相 ~ 菅義偉首相

◆ 新型コロナまとめ

◆ 会員登録で読み放題

◆ 読者限定！豪華フ

横須賀火力発電所の運転停止から2カ月、運転再開は難しい状況



社会 | 神奈川新聞 | 2010年5月31日(月) 21:40



運転が長期停止となった東京電力横須賀火力発電所 = 横須賀市久里浜

東京電力横須賀火力発電所（横須賀市久里浜、小関正剛所長）の運転停止から2カ月が過ぎた。静かな発電所内では、運転再開できる状態を維持する作業が進んでいる。しかし、電力需要の落ち込みなどの

状況が変わらない限り、再開は難しいとみられる。同発電所は久里浜地区のシンボルともいえる大規模施設だけに、今後の推移が注目される。

東電横須賀火力発電所は1960年に1号機が運転を開始し、ピーク時の総出力は297・4万キロワットを誇った。しかし、老朽化などで2006年までに2基を廃止。2基も05年10月までに長期計画停止となり、08年6月以降は石油火力4基とガスタービン2基（計157・4万キロワット）が通常運転していた。

4月からの全面的な長期計画停止は、柏崎刈羽原子力発電所6、7号機の運転再開によって安定供給に支障がないと判断したため。加えて、節電意識の高まりから電力需要が落ち込んだことも影響したという。

長期計画停止になった設備の運転を再開するには検査が必要で、需要が急増した場合などにもすぐに対応できない。東電によると、同発電所では6月末の完了をめどに燃料などを取り除いて老朽化を抑え、稼働再開に備える「保管作業」が進んでいる。

広さ約80ヘクタールの広大な敷地を有し、半世紀の歴史を持つ同発電所。最大の注目である今後については「何も決まっていない」（小関所長）状態だが、情勢に大きな変化がない限り運転再開は難しそうだ。小関所長は「発電所内の運動施設は引き続き市民に開放するなど、地元との良好な関係は続けていきたい」と話している。

【